

286) 夢モノクローム

みぞれ混じりの時雨空しぐれぞらから とうとう雪が降ってきました
ワインレッドの香りに酔って ふたりの時間ときが過ぎてゆきます
あなたひとりで家路つくには あまり寂しいクリスマスです
ずっとこのまま暖炉のそばで 朝が来るまで飲み明かしましょう

窓の外にはあかり燈も消えて 静かに雪が積もってゆきます
まどろみながらキスを交わして ふたりの夜が更けてゆきます
わたしひとりで眠りつくには あまりに寒い雪の夜です
ずっとこのままソファの上で 朝が来るまで抱いてください

街のざわめきおお覆いつくして モノクロームの雪が降ります
温もり求め身体をよせて ふたりの愛が燃えてゆきます
過去も未来もすべてを捨てて わたしあなたについてゆきます
ずっとこのままベッドの中で 朝が来るまで愛してください

嘘も誠も人の情けも うず埋めるように雪が降ります
モノクロームに光がさして わたしの夢が溶けてゆきます
われにかえれば去年と同じ ひとりぼっちのクリスマスです
雪国育ちの女がひとり 雪に抱かれて夢を見ました
雪国育ちの女がひとり 雪に抱かれて燃え尽きるのです

→